

駒岡清掃工場更新事業者選定委員会（以下「委員会」という。）は、札幌市（以下「本市」という。）が令和元年8月1日に公告した「駒岡清掃工場更新事業」の総合評価一般競争入札に係る事業者提案について、提案書及び入札価格について定量化審査により総合的に審査を行った。

本市は、委員会による審査の結果を踏まえ、落札者を決定したため、委員会における評価の結果を審査講評として公表する。

令和2年2月28日

札幌市長 秋元 克広

駒岡清掃工場更新事業
審査講評

令和2年2月28日

札幌市

駒岡清掃工場更新事業者選定委員会

駒岡清掃工場更新事業 審査講評
目 次

第1章 事業概要	1
1 事業名称	1
2 公共施設の概要等	1
3 事業期間	1
4 事業方式	1
5 業務範囲	2
第2章 審査方法等	3
1 入札の方法	3
2 落札者決定までの経過	3
3 委員会の設置	4
4 委員会の開催経過	4
5 落札者決定の手順	5
6 審査手順	6
第3章 落札候補者の選定結果	9
1 資格審査	9
2 提案書の基礎審査	9
3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング	9
4 入札価格の定量化審査	14
5 総合評価値の算出	14
6 落札候補者の選定	14
第4章 本市の財政負担見込額の比較	15
第5章 総評	16

第1章 事業概要

1 事業名称

駒岡清掃工場更新事業

2 公共施設の概要等

(1) 事業予定地

項目	概要
計画地所在地	札幌市南区真駒内 129 番 3 他
敷地面積（事業用地面積）	約 84,000 m ²

(2) 施設の概要

施設の種類	概要	
焼却施設	処理対象物	燃やせるごみ、破碎施設からの破碎残渣
	処理方式	全連続燃焼式（ストーカ式）
	処理能力	600t/日（300t/日×2 炉）
破碎施設	処理対象物	燃やせないごみ、大型ごみ
	処理方式	破碎・選別
	処理能力	130t/日（剪断ライン：80t/日、回転破碎ライン：50t/日）

3 事業期間

事業期間は、特定事業契約締結日から令和 27 年（2045 年）3 月 31 日までの約 25 年間であり、設計・建設期間、運営・維持管理期間から構成される。

(1) 設計・建設期間：特定事業契約締結日～令和 7 年（2025 年）3 月 31 日

(2) 運営・維持管理期間：令和 7 年（2025 年）4 月 1 日～令和 27 年（2045 年）3 月 31 日

4 事業方式

駒岡清掃工場更新事業（以下「本件事業」という。）は D B O（Design：設計、Build：建設、Operate：運営）方式により実施する。

本市は、新清掃工場（以下「本施設」という。）の設計・建設及び運営・維持管理に係る資金を調達する。なお、本施設は、本市が所有する。また、本施設の設計・建設業務については、循環型社会形成推進交付金の対象事業として実施する。

落札者の構成員、協力企業及び運営事業者は、選定事業者として、本施設の設計・建設業務及び運営・維持管理業務に係る本件事業を一括して行う。なお、運営事業者は本市内に設立する。

5 業務範囲

(1) 事業者が行う業務範囲

事業者が行う主な業務範囲は、次のとおりである。

ア 設計・建設業務

- (a) 建設事業者は、本市と締結する建設工事請負契約に基づき設計・建設業務を行う。また、本件事業を行うために必要な許認可の取得を行う。
- (b) 設計・建設業務の範囲は、機械設備工事、電気計装設備工事、土木建築工事等の実施設計及び工事の施工とし、本施設の整備に必要なものすべてを含む。
- (c) 建設事業者は、本施設の建設等に伴って発生する建設廃棄物等の処理、処分及びその他の関連するもの、建築確認（計画通知）等の許認可等手続き、プラント設備の試運転及び引渡性能試験、長寿命化計画（施設保全計画）の策定及び工事中の住民対応等の各種関連業務について手続に伴う費用負担を含め行う。

イ 運営・維持管理業務

- (a) 運営事業者は、本市と締結する運営・維持管理業務委託契約に基づき、一般廃棄物（燃やせるごみ、燃やせないごみ、大型ごみ等）及び産業廃棄物（紙くず、木くず、繊維くず）を受け入れ、要求水準書に規定する要求水準を満足する適正な処理を行う。なお、その際に、本件事業の運営・維持管理業務として受付・計量業務、運転管理業務、環境管理業務、副生成物及び資源物に係る業務、プラント設備の点検、検査、補修、更新業務、用役管理業務、機器等の管理業務、建築物等の保守管理業務、運営事務、情報管理業務、地域貢献事業等を行う。
- (b) 運営事業者は、処理対象物の受入及び計量を行うとともに、許可搬入者及び自己搬入者からのごみ処理手数料について、本市が定める金額を本市が定める方法で収納する。
- (c) 運営事業者は、ごみの処理に伴って発生する熱エネルギーを利用して発電を行い、本施設内での利用を行うとともに、余剰電力を電力事業者へ送電する。なお、売電収入は本市に帰属する。
- (d) 運営事業者は、ごみの処理に伴って発生する熱エネルギーを利用して地域熱供給事業者等への熱供給を行う。なお、熱供給料金収入は本市に帰属する。
- (e) 運営事業者は、焼却施設での処理に伴い発生する焼却灰等について、本施設内で貯留・保管、積み込みまでを行う。
- (f) 運営事業者は、本施設での処理に伴い発生する金属類、処理不適物を本施設内で、貯留・保管、積み込みを行い、本市が指定する業者に引き渡す。
- (g) 運営事業者は、見学者や視察者等に受付から引率や説明、その他の対応について行う。なお、行政視察等については、予約の受付を含め本市が行うが、運営事業者はこれに協力する。

第2章 審査方法等

1 入札の方法

入札の方法は、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）第167条の10の2に規定する総合評価一般競争入札方式により実施した。

2 落札者決定までの経過

落札者決定の経過は、表1のとおりである。

表1 落札者決定の経過

月 日 等	内 容
令和元年（2019年）8月1日（木）	入札公告
令和元年（2019年）8月1日（木）	入札説明書等（入札説明書、要求水準書、落札者決定基準、様式集、基本協定書（案）及び特定事業契約の契約書（案）、リスク管理方針書）の公表
令和元年（2019年）8月7日（水） ～8月9日（金）	入札説明書等に関する説明会及び現地見学会
令和元年（2019年）8月13日（火） ～8月19日（月）	入札説明書等に関する質問の受付（第1回）
令和元年（2019年）9月3日（火）	入札説明書等に関する質問の回答（第1回）
令和元年（2019年）9月5日（木） ～9月9日（月）	参加資格審査申請書類の受付
令和元年（2019年）9月18日（金）	参加資格審査結果の通知
令和元年（2019年）10月2日（水）	対面的対話の実施
令和元年（2019年）10月7日（月） ～10月15日（火）	入札説明書等に関する質問の受付（第2回）
令和元年（2019年）10月11日（金）	参加資格審査結果に関する説明要求の提出期限
令和元年（2019年）10月31日（木）	入札説明書等に関する質問の回答（第2回）
令和元年（2019年）12月3日（火）	入札提出書類の提出期限
令和2年（2020年）2月7日（金）	提案書に関するヒアリング及び審査
令和2年（2020年）2月7日（金）	開札
令和2年（2020年）2月18日（火）	落札者の決定及び公表

3 委員会の設置

提案書の定量化審査は、公平性及び透明性を確保し、専門的知見に基づく評価を行うことを目的に、学識経験者6名の委員により構成される委員会にて行った。

[委員の構成]

	氏 名	所 属
	荒井 喜久雄	公益社団法人全国都市清掃会議 技術指導部長
	石嶋 芳臣	北海学園大学 経営学部 教授
◎	小林 三樹	公益財団法人北海道環境財団 理事長
	近久 武美	北海道職業能力開発大学校 校長
	藤原 周史	一般財団法人日本環境衛生センター 部長
○	吉田 英樹	室蘭工業大学大学院 准教授

※ ◎：委員長、○：副委員長

(五十音順)

4 委員会の開催経過

本件事業の事業者選定における委員会の開催経過は、表2のとおりである。

表2 委員会の開催経過

日 付	内 容
平成31年(2019年)2月5日(火)	第1回委員会 (事業概要、実施方針(案)、要求水準書(案)に関する説明・審議)
平成31年(2019年)4月24日(水)	第2回委員会 (事業者募集書類に関する審議)
令和元年(2019年)5月22日(水)	第3回委員会 (事業者募集書類に関する審議)
令和元年(2019年)6月19日(水)	第4回委員会 (事業者募集書類に関する審議)
令和2年(2020年)1月17日(金)	第5回委員会 (提案書の基礎審査結果報告、提案書の定量化審査に関する意見交換)
令和2年(2020年)2月7日(金)	第6回委員会 (事業者ヒアリング、提案書の定量化審査、開札、入札価格の定量化審査、総合評価値の算定、落札候補者の選定、審査講評の審議、報告)

5 落札者決定の手順

落札者決定の手順については、図1のとおりである。

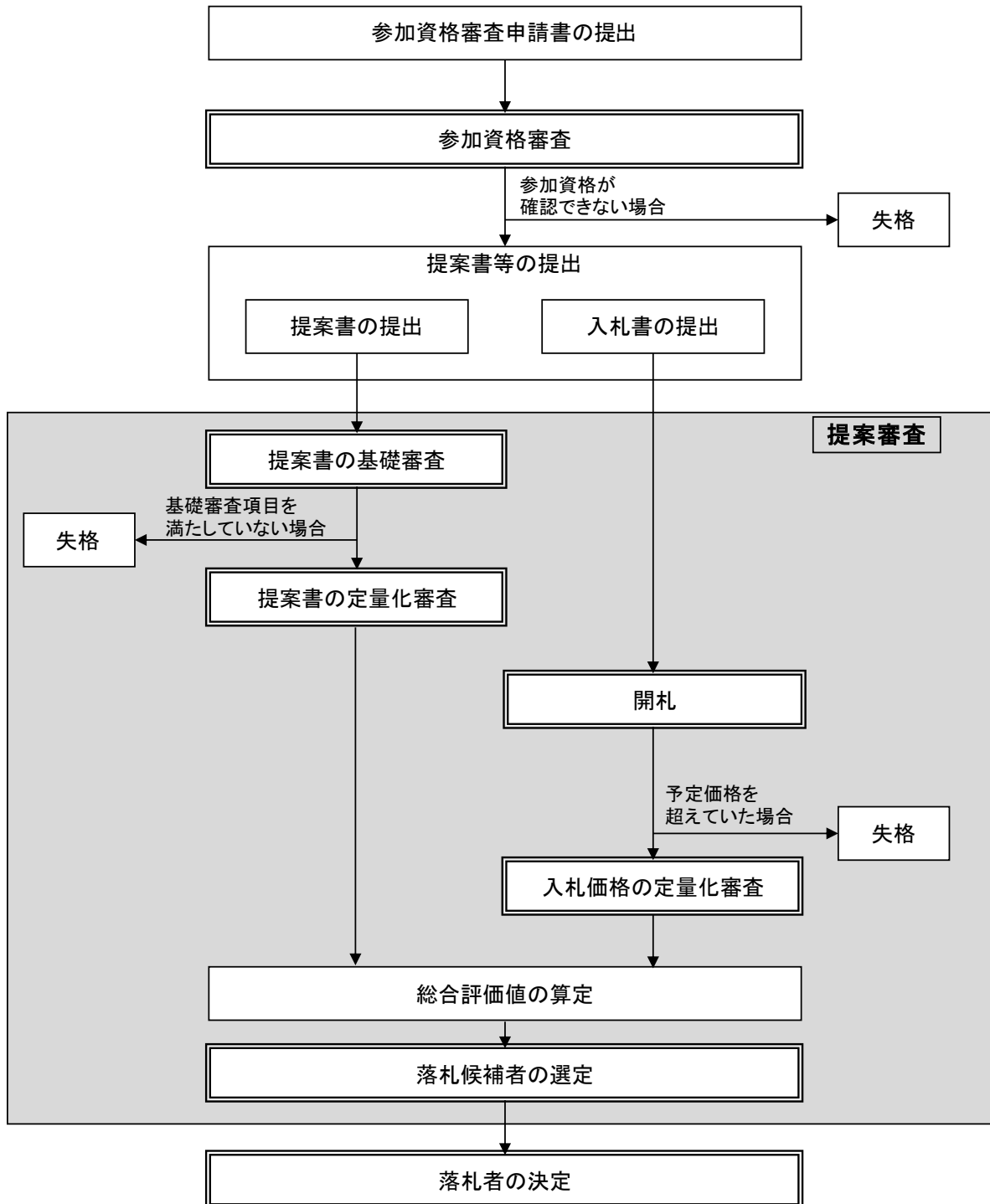


図1 落札者決定の手順

6 審査手順

(1) 参加資格審査

本市は、参加表明書及び参加資格審査申請書等の提出書類により、入札説明書に記載の入札参加者の備えるべき参加資格要件を満たしていることを確認する。

(2) 提案審査

ア 提案書の基礎審査

本市は、提案書等に記載された内容が、落札者決定基準に示す基礎審査項目を満たしていることを確認する。確認内容は、表3のとおりである。

表3 確認内容

確認項目	内 容
提案書等の確認	・ 提出された提案書等がすべて揃っていること。
提案書の基礎審査	・ 提案書の内容が要求水準書に示す要求水準をすべて満たしていること。 ・ 入札説明書及び様式集に示す提案書の作成に関する条件について違反のないこと。 ・ 提案書全体について、同一事項に対する2通り以上の提案又は提案事項間の齟齬、矛盾等がないこと。

イ 提案書の定量化審査

(a) 審査項目及び配点

委員会は、表4に示す審査項目及び配点に対し、提案書等に記載された内容について審査する。

表4 審査項目及び配点

審査項目				配点 (60点)
大項目	中項目	小項目	細目	
1	設計・建設業務及び運営・維持管理業務に関する事項			45点
	(1) 環境に対して安全、安心を約束する施設			26点
	ア	環境保全	① 地域の環境保全	2点
	イ	施設の安心、安定稼働	① 基本性能の維持	5点
			② 処理システムの信頼性	5点
			③ 他施設との連携	2点
			④ 日常の運営・維持管理	2点
	ウ	施設の安全性	① トラブルの未然防止、事後対策及び非常時の安全確保	2点
	エ	配置動線計画	① 屋外配置動線計画	2点
			② 屋内配置動線計画	4点
	オ	施工計画	① 施工計画	2点
	(2) 高効率なエネルギー回収を行う施設			8点
	ア	高効率なエネルギー回収	① 発電効率及び余剰電力量	5点
	イ	省資源、省エネルギー	① 省資源、省エネルギー	3点
	(3) 地域への融和に貢献する施設			11点
	ア	周辺環境に融和するデザイン	① 周辺環境に融和するデザイン	3点
	イ	環境学習計画	① 見学者対応及び環境学習計画	4点
	ウ	災害復興拠点	① 災害対応力の強靱化	4点
2	事業計画に関する事項			15点
	(1) 信頼性の高い運営管理体制			10点
	ア	運営管理体制	① 運営管理体制・人員配置計画	4点
	イ	事業の継続性の担保	① 事業収支計画、運営事業者への協力体制、バックアップ体制	3点
	ウ	リスク管理方針及びセルフモニタリング	① リスク管理及びセルフモニタリング	3点
	(2) その他			5点
	ア	地域への貢献	① 市内企業や資材調達、市民雇用の提案	3点
	イ	その他の提案	① 本事業への有効性	2点

(b) 技術提案に関する得点化方法

- ① 提案を求めている審査項目においては、表5に示す5段階評価による得点化方法により得点を付与する。

表5 審査基準及び得点化方法

評価	審査基準	得点化方法
A	特に優れている	配点×1.00
B	AとCの中間程度	配点×0.75
C	優れている	配点×0.50
D	CとEの中間程度	配点×0.25
E	優れているとは認められない／要求水準を満たす程度	配点×0.00

- ② 各審査項目の評価点については、表6に示す算定式により、各委員が個別に行った評価の平均値とする。なお、平均値を求める際は、小数第3位を四捨五入した値とする。
- ③ ②の結果をもとに、各入札参加者の得点の合計を算出する。

表6 技術提案の得点算定式

算定式【技術提案の得点算定式】
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{技術提案に関する得点} \end{array} \right) = \frac{\sum (\text{各審査項目の配点} \times \text{審査基準})}{\text{委員人数(6名)}}$

ウ 入札価格の定量化審査

入札価格の定量化審査においては、入札価格について、表7に示す得点算定式により得点を付与する。なお、得点は、小数第3位を四捨五入した値とする。

表7 入札価格の得点算定式

算定式【入札価格の得点算定式】
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に関する得点} \end{array} \right) = 40 \text{点} \times \left[1 - 1 \times \left(\frac{\text{入札価格}}{\text{予定価格}} \right)^{10} \right]$

エ 総合評価値の算定方法

「提案書の定量化審査（技術提案に関する得点）」、「入札価格の定量化審査（入札価格に関する得点）」により算出した各入札参加者の得点から、表8に示す算定式により、各入札参加者の総合評価値を算出する。

表8 総合評価値の算定式

算定式【総合評価値の算定式】
$\left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{総合評価値} \\ \text{(満点:100点)} \end{array} \right) = \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{技術提案に関する得点} \\ \text{(満点:60点)} \end{array} \right) + \left(\begin{array}{c} \text{当該入札参加者の} \\ \text{入札価格に関する得点} \\ \text{(満点:40点)} \end{array} \right)$

第3章 落札候補者の選定結果

1 資格審査

令和元年8月1日に入札公告を行い、令和元年9月9日までに参加表明書及び参加資格審査申請書を受け付けたところ、以下の3グループから申請があった。

本市は、参加資格の確認を行い、令和元年9月18日に代表企業に対し、入札参加資格を有することを書面にて通知した。

表9 参加表明書及び参加資格審査申請書等提出グループ

受付グループ名	酉（トリ）グループ	戌（イヌ）グループ	巳（ヘビ）グループ
グループ名	日立造船グループ	荏原環境プラントグループ	タクマグループ
代表企業	日立造船株式会社 北海道支社	荏原環境プラント株式会社 北海道支店	株式会社タクマ 北海道支店
構成員	新明和工業株式会社 株式会社大林組 札幌支店 荒井建設株式会社 札幌支店 Hitz 環境サービス株式会社	メタウォーター株式会社 北海道営業所	極東開発工業株式会社 岩田地崎建設株式会社 伊藤組土建株式会社 岩倉建設株式会社 株式会社田中組 丸彦渡辺建設株式会社 株式会社タクマテクノス 株式会社タクマテクノス北海道 極東サービスエンジニアリング 北海道株式会社 協立設備株式会社
協力企業	株式会社共伸設備設計事務所 株式会社協栄設備設計事務所	大成建設株式会社 札幌支店 株式会社中山組 株式会社泰進建設	—

なお、委員会による審査にあたっては、審査の公平性を期すため、提案書等すべての書類において各グループの企業名は伏せ、表9の受付グループ名で識別して審査を行った。

2 提案書の基礎審査

令和元年12月3日までに入札参加資格を有する3グループより提案書等が提出された。

本市は、提出された提案書等をもとに基礎審査項目に沿って基礎審査を行った。提案書等を提出した3グループは、いずれも本市が要求する水準を満足していたため、基礎審査に合格しているものと認められた。

3 提案書の定量化審査及び提案書に関するヒアリング

委員会は、令和2年2月7日に提案書の定量化審査を行った。審査に際しては、提案書に関する入札参加者による説明（プレゼンテーション）及び委員による提案内容に対する質疑（ヒアリング）を実施し審査を行った。

定量化審査の審査項目について、適確な提案がなされているかの審査を行い、提案書に関する得点化を行った。なお、評価は、本市の要求する水準を満たしたうえで、より優れた提案に対して評価を行う加点方式である。

提案書の定量化審査に関する得点結果は、表10のとおりである。

表10 提案書の定量化審査に関する得点結果

審査項目		配点	酉(トリ)グループ	戌(イヌ)グループ	巳(ヘビ)グループ	
大項目	中項目					
	1 設計・建設業務及び運営・維持管理業務に関する事項	45	34.22	33.56	34.04	
	(1) 環境に対して安全、安心を約束する施設	<u>26</u>	<u>19.91</u>	<u>19.26</u>	<u>20.16</u>	
	ア 環境保全	① 地域の環境保全	2	1.75	1.58	1.83
	イ 施設の安心・安定稼働	① 基本性能の維持	5	3.54	3.96	3.96
		② 処理システムの信頼性	5	4.38	3.96	3.96
		③ 他施設との連携	2	1.33	1.25	1.42
		④ 日常の運営・維持管理	2	1.42	1.50	1.33
	ウ 施設の安全性	① トラブルの未然防止・事後対策及び非常時の安全確保	2	1.58	1.67	1.42
	エ 配置動線計画	① 屋外配置動線計画	2	1.50	1.42	1.33
		② 屋内配置動線計画	4	2.83	2.67	3.33
	オ 施工管理	① 施工計画	2	1.58	1.25	1.58
	(2) 高効率なエネルギー回収を行う施設	<u>8</u>	<u>5.84</u>	<u>6.09</u>	<u>6.05</u>	
	ア 高効率なエネルギー回収	① 発電効率及び余剰電力量	5	3.96	3.96	4.17
	イ 省資源、省エネルギー	① 省資源、省エネルギー	3	1.88	2.13	1.88
	(3) 地域への融和に貢献する施設	<u>11</u>	<u>8.47</u>	<u>8.21</u>	<u>7.83</u>	
	ア 周辺環境に融和するデザイン	① 周辺環境に融和するデザイン	3	2.13	2.38	2.00
	イ 環境学習計画	① 見学者対応及び環境学習計画	4	3.17	2.83	3.00
	ウ 災害復興拠点	① 災害対応力の強靱化	4	3.17	3.00	2.83
	2 事業計画に関する事項	15	10.51	11.21	11.10	
	(1) 信頼性の高い運営管理体制	<u>10</u>	<u>7.09</u>	<u>7.33</u>	<u>7.30</u>	
	ア 運営管理体制	① 運営管理体制・人員配置計画	4	2.83	2.83	3.17
	イ 事業の継続性の担保	① 事業収支計画、運営事業者への協力体制、バックアップ体制	3	2.13	2.25	2.13
	ウ リスク管理方針及びセルフモニタリング	① リスク管理及びセルフモニタリング	3	2.13	2.25	2.00
	(2) その他	<u>5</u>	<u>3.42</u>	<u>3.88</u>	<u>3.80</u>	
	ア 地域への貢献	① 市内企業や資材調達、市民雇用の提案	3	2.00	2.38	2.38
	イ その他の提案	① 本事業への有効性	2	1.42	1.50	1.42
技術提案に関する得点		60	44.73	44.77	45.14	

提案書に関する各審査項目における講評は、表 1 1 のとおりである。

表 1 1 各審査項目の講評

審査項目		講評
1 設計・建設業務及び運営・維持管理業務に関する事項		
(1) 環境に対して安全、安心を約束する施設		
ア 環境保全	① 地域の環境保全	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、排ガスによる環境負荷の低減に配慮した提案を行っている点を評価した。 巳（ヘビ）グループは、具体的な排ガス関連の発生抑制、除去システムや騒音、振動の低減策等の提案を行っている点を評価した。
イ 施設の安心、安定稼働	① 基本性能の維持	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、基本性能の維持を考慮した点検、検査、補修、予防保全に配慮した提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループ、巳（ヘビ）グループは、豊富な実績に基づく具体的な主要機器の維持補修計画等の提案を行っている点を評価した。
	② 処理システムの信頼性	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、人口減少、ごみ質変動、災害廃棄物等の受入、確実な資源物の回収等に対応できる処理システム構築の提案を行っている点を評価した。 酉（トリ）グループは、災害廃棄物の受入、保管、処理方法に関する具体的な提案を行っている点を評価した。
	③ 他施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、札幌市の他の施設での緊急時の対応等による車両の受入台数の増加等に柔軟に対応できる提案を行っている点を評価した。 巳（ヘビ）グループは、具体的な受付・精算の提案を行っている点を評価した。
	④ 日常の運営・維持管理	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、日常の運営・維持管理及び混雑時、悪天候時、夜間のトラブル時等における優れた提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループは、施設整備内容の工夫により維持管理業務軽減の提案を行っている点を評価した。
ウ 施設の安全性	① トラブルの未然防止、事後対策及び非常時の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、予期せぬ事象の発生に備えるとともに、実現性の高い事業継続計画の提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループは、破碎施設における事故発生要因と対策を十分に分析した上で、爆発事故・火災リスクの最小化に係る提案を行っている点を評価した。

審査項目		講評
エ 配置動線計画	① 屋外配置動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、敷地条件を踏まえた全体配置計画の提案を行っている点を評価した。 酉（トリ）グループは、十分な待車スペース、明確な車両動線の提案を行っている点を評価した。
	② 屋内配置動線計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、ごみの受入における作業性及び安全性に配慮した配置動線計画の提案を行っている点を評価した。 巳（ヘビ）グループは、安全かつ円滑な搬入の提案を行っている点を評価した。
オ 施工計画	① 施工計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、確実に工期を履行するために、具体的な施工計画の提案を行っている点を評価した。 酉（トリ）グループ、巳（ヘビ）グループは、降雪対策として有効的な提案を行っている点を評価した。
(2) 高効率なエネルギー回収を行う施設		
ア 高効率なエネルギー回収	① 発電効率及び余剰電力量	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、循環型社会形成推進交付金の交付要件を超える高いエネルギー回収率と年間を通じた安定的かつ効率的な発電計画の提案を行っている点を評価した。 巳（ヘビ）グループは、余剰電力量の最大化と都市ガス・コージェネレーションシステム（CGS）の効率運用の提案を行っている点を評価した。
イ 省資源、省エネルギー	① 省資源、省エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、発電や省エネルギー機器の採用等により、二酸化炭素の排出抑制に貢献する提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループは、具体的かつ有効的な省資源材料、省エネルギー対策の提案を行っている点を評価した。
(3) 地域への融和に貢献する施設		
ア 周辺環境に融和するデザイン	① 周辺環境に融和するデザイン	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、周辺環境に融和し、周辺に圧迫感を与えないよう、施設のデザインを工夫した提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループは、緑地の作り方に創意工夫があり、連続性や一体感を持った提案を行っている点を評価した。
イ 環境学習計画	① 見学者対応及び環境学習計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、充実した見学者対応設備及び環境学習計画の提案を行っている点を評価した。 酉（トリ）グループは、見学者に対しての見せ方を工夫する提案を行っている点を評価した。

審査項目		講評
ウ 災害復興拠点	① 災害対応力の強靱化	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、施設の強靱性に配慮した点や充実した避難所機能の提案を行っている点を評価した。 酉（トリ）グループは、避難備蓄品について多様性のある提案を行っている点を評価した。
2 事業計画に関する事項		
(1) 信頼性の高い運営管理体制		
ア 運営管理体制	① 運営管理体制・人員配置計画	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、運営管理体制の構築に関しては、豊富な実績に基づいて具体的な提案を行っている点を評価した。 巳（ヘビ）グループは、充実した人員配置及び教育計画の提案を行っている点を評価した。
イ 事業の継続性の担保	① 事業収支計画、運営事業者への協力体制、バックアップ体制	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、運営・維持管理期間にわたる安定した事業収支、協力体制、バックアップ体制を計画した提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループは、不測の実態を回避するための有効な提案や周辺施設からの人的支援の提案等を行っている点を評価した。
ウ リスク管理方針及びセルフモニタリング	① リスク管理及びセルフモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、適切なリスク管理方針、リスク管理体制、セルフモニタリング及び保険の付保を計画した提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループは、豊富な実績に基づく具体的なリスク管理プロセス及びリスク管理体制の提案を行っている点を評価した。
(2) その他		
ア 地域への貢献	① 市内企業や資材調達、市民雇用の提案	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、市内企業の活用や市民の雇用等に最大限考慮した提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループ、巳（ヘビ）グループは、地域への貢献が高い提案を行っている点を評価した。
イ その他の提案	① 本事業への有効性	<ul style="list-style-type: none"> 各グループとも、最新技術の導入等本事業にとって有効な提案を行っている点を評価した。 戌（イヌ）グループは、最新技術の導入に関する具体的な提案を行っている点を評価した。

4 入札価格の定量化審査

本市は、令和2年2月7日に開札を行い、予定価格の範囲内であることを確認した。委員会は、開札結果の報告を受け、入札価格に関する得点化を行った。入札価格の定量化審査に関する得点結果は、表12のとおりである。

表12 入札価格の定量化審査に関する得点結果

受付グループ名	配点	入札価格（税抜）	入札価格に関する得点
酉（トリ）グループ	40点	58,800,000,000 円	39.00 点
戌（イヌ）グループ		72,000,000,000 円	32.43 点
巳（ヘビ）グループ		60,716,000,000 円	38.62 点

5 総合評価値の算出

委員会は、令和2年2月7日に「提案書の定量化審査に関する得点（技術提案に関する得点）」、「入札価格の定量化審査に関する得点（入札価格に関する得点）」を加算して、表13のとおり総合評価値を算出した。

表13 総合評価値の算出結果

受付グループ名	技術提案に関する得点（A）	入札価格に関する得点（B）	総合評価値（A）+（B）
酉（トリ）グループ	44.73 点	39.00 点	83.73 点
戌（イヌ）グループ	44.77 点	32.43 点	77.20 点
巳（ヘビ）グループ	45.14 点	38.62 点	83.76 点

6 落札候補者の選定

委員会は、上記の結果に基づき「巳（ヘビ）グループ（グループ名：タクマグループ、代表企業：株式会社タクマ北海道支店）」を落札候補者として選定した。

第4章 本市の財政負担見込額の比較（客観的な評価の結果）

落札者の落札価格に基づき、本件事業をDBO方式として実施する場合の財政負担見込額について、本市自ら実施する場合の財政負担見込額と現在価値換算のうえ比較した結果、31.8%の削減が見込まれる。

第5章 総評

本件事業は、焼却施設と破砕施設の設計・建設及び運営・維持管理を一括して民間事業者が発注する事業である。政令指定都市に整備する廃棄物処理施設という点はもとより、非常用発電装置を兼ねた都市ガス・コージェネレーションシステム（CGS）の利用や一時的な避難者の受入等、将来を見据えた特徴的な機能を備えており、札幌市の循環型社会形成を担う中核施設として、市民や民間事業者から広く注目を集めてきたところである。

このような背景を踏まえ、委員会は、総合評価一般競争入札により落札候補者を選定するに当たって、公平性及び透明性に配慮するとともに、地域や行政のニーズへの適合性を重視し、事業者選定のための審査を適正に実施した。

今回、入札に参加した3グループの提案は、いずれも本件事業の目的や各業務の内容について札幌市が要求する水準と同等、もしくは上回る提案内容であった。基本性能の維持、処理システムの信頼性、発電効率及び余剰電力量に関する事項では、3グループとも、札幌市の趣旨を十分理解したうえで、本件事業の方針・目的が提案されており、高く評価された。また、見学者対応及び環境学習計画に関する事項では、日立造船グループ（受付グループ名：酉（トリ）グループ）は、設備構成や環境学習に係る計画が高く評価された。省資源、省エネルギーに関する事項では、荏原環境プラントグループ（受付グループ名：戌（イヌ）グループ）は、有効的な省資源材料、省エネルギー対策に係る計画が高く評価された。

落札者決定基準に則り厳正なる審査の結果、委員会では、技術提案の得点と入札価格の得点を合計した総合評価値で最も高い得点を獲得した株式会社タクマ北海道支店を代表企業とするタクマグループ（受付グループ名：巳（ヘビ）グループ）を落札候補者として選定するに至った。落札候補者は、全体的に提案内容が現実的であり、特に、具体的な排ガス関連の発生抑制、除去システムや騒音、振動の低減策等の提案を行っている点及び札幌市の特性を十分理解した他施設との連携や安全かつ円滑な屋内配置動線計画の提案を行っている点が高く評価された。

なお、委員会の審議において、上記の事項を評価する一方で、タクマグループ（受付グループ名：巳（ヘビ）グループ）の提案内容に対して、以下に示す配慮・要望事項が挙げられた。札幌市及び落札候補者は、本件事業が市政の重要な役割を担うものであることを認識し、本件事業をより良いものとするために、必要な対応に努めることを期待したい。

- ① 要求水準書及び提案書等を遵守し、札幌市の意向を踏まえ、十分な協議を行い、誠意をもって確実に事業の実施に努めていただきたい。
- ② 処理対象物の安定処理、提案された発電効率、余剰電力量の達成に努めるとともに、運転計画の創意工夫等によりさらなるエネルギー回収に努めていただきたい。
- ③ 公害防止基準の自主管理値を遵守し、環境に配慮した施設運営の実施に努めていただきたい。
- ④ 提案された二酸化炭素排出量削減の達成に努めるとともに、コストを意識したうえで、省資源、省エネルギーを含めたさらなる環境負荷の低減に努めていただきたい。
- ⑤ 地域特性を踏まえた環境学習の実施やイベントの開催を通じ、地域の活性化に努めていただきたい。
- ⑥ 地域住民との良好な関係の構築、維持に努め、地域住民に信頼され、安心して利用できる施設になるように努めていただきたい。
- ⑦ 提案された市内企業への発注金額等の達成に努めるとともに、さらなる市内企業の活用、市内調達、市民の雇用及び人材育成等により地域への貢献に努めていただきたい。

最後に、3グループにおいては、提案内容が多岐にわたることから、提案書の作成において多大な労力及び費用負担があったことが想定される。そうしたなかで提案をまとめた応募者の熱意及び姿勢に敬意を表するとともに、深く感謝したい。

令和2年2月28日

駒岡清掃工場更新事業者選定委員会 委員長 小林 三樹